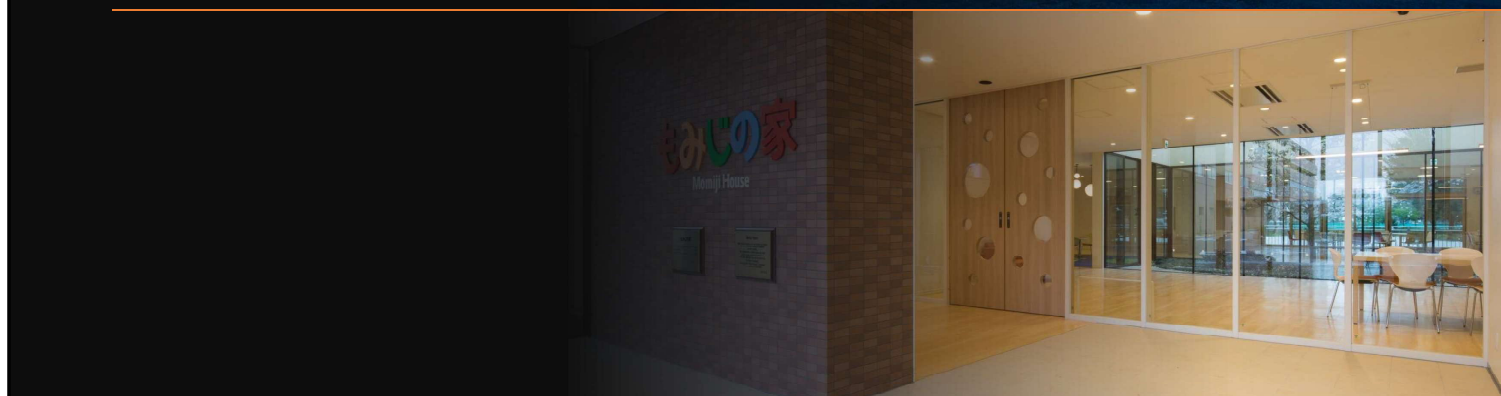


第17回小児がん拠点病院連絡協議会
2023/1/26 14:00-17:00

緩和ケア部会からの報告



緩和ケア部会

- ・部会員 資料5を参照

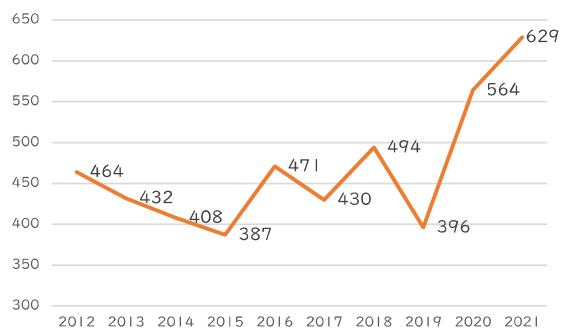
緩和ケア部会 部会員名簿

2023年1月26日

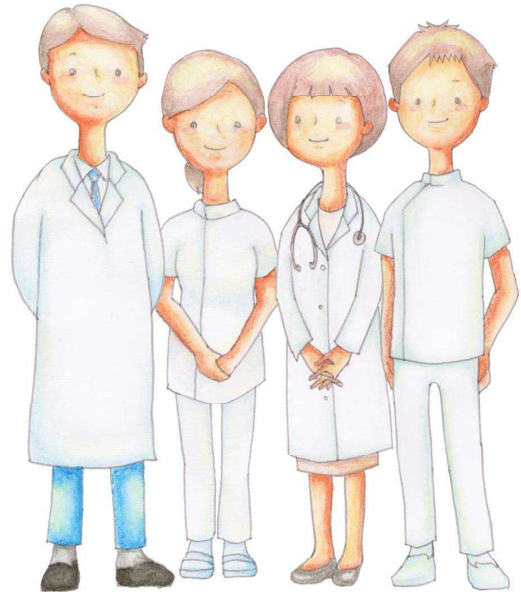
施設名	名前	職種
北海道大学病院	長 祐子	医師
北海道大学病院	敦賀 健吉	医師
東北大学病院	井上 彰	医師
東北大学病院	笹原 洋二	医師
埼玉県立小児医療センター	川上 純子	看護師
埼玉県立小児医療センター	森 麻希子	医師
東京都立小児総合医療センター	瀬戸 真由里	看護師
東京都立小児総合医療センター	森 尚子	医師
神奈川県立こども医療センター	堀木 としみ	医師
神奈川県立こども医療センター	横須賀 とも子	医師
静岡県立こども病院	高地 貴行	医師
名古屋大学医学部附属病院	杉下 美保子	医師
三重大学医学部附属病院	松原 貴子	医師
三重大学医学部附属病院	森本 真理	医師
京都府立医科大学附属病院	宮澤 真由美	看護師
京都府立医科大学附属病院	宮地 充	医師
京都大学医学部附属病院	嶋田 和貴	医師
京都大学医学部附属病院	恒藤 暁	医師
大阪市立総合医療センター	石井 裕子	医師
大阪市立総合医療センター	岡田 恵子	医師
兵庫県立こども病院	神前 愛子	医師
兵庫県立こども病院	関口 典子	医師
広島大学病院	唐川 修平	医師
広島大学病院	中山 満誉	看護師
九州大学病院	古賀 友紀	医師
国立成育医療研究センター	會田 麻里絵	看護師
国立成育医療研究センター	余谷 暢之	医師

小児がん患者に対する緩和ケアチームの介入実態

緩和ケアチームの小児がん患者への介入件数
年度別推移



緩和ケアチーム登録データより（日本緩和医療学会）



緩和ケアチーム介入実態：小児がん内訳

	拠点/全体（人）
小児がん	613/629
小児非がん	38/44

	全体	都道府県	地域
0件	87.5%	47.1%	87.8%
1-10件	10.3%	41.2%	10.6%
11-50件	1.7%	7.8%	1.3%
51-100件	0.4%	2.0%	0.3%
101- 件	0.4%	2.0%	0%

※都道府県：都道府県がん診療連携拠点病院
地域：地域がん診療連携拠点病院

緩和ケアチーム登録2022（2021年度実績）

依頼内容

	全体	小児のみ
疼痛	62.8%	38.0%
疼痛以外の身体症状	48.3%	18.9%
精神症状	40.1%	58.7%
家族ケア	10.2%	58.5%
倫理的問題	6.0%	5.9%
地域との連携・退院支援	13.9%	8.1%
その他	9.1%	7.6%

小児緩和ケアチーム研修会

・2018年から開始

2018年度	緩和ケアチーム研修（多職種チーム研修）	51人
2019年度	緩和ケアチーム研修（多職種チーム研修）	91人
2020年度	緩和ケアチーム研修（多職種チーム研修）	104人
2021年度	緩和ケアチーム研修（多職種チーム研修）	82人

・研修会の目的

- ・専門的小児緩和ケア診療のスキルを上げる
- ・小児緩和ケアのつながりを作る
- ・現状把握とこれからの取り組みについて考える

2022年度 18施設 64人

北海道大学	静岡県立こども病院	宮城県立こども病院
東北大学	三重大学	茨城県立こども病院
埼玉県立小児医療センター	京都大学	千葉県こども病院
国立成育医療研究センター	京都府立医科大学	慶應義塾大学
東京都立小児総合医療センター	広島大学	長野県立こども病院
神奈川県立こども医療センター	九州大学	大阪母子医療センター

施設内訳

大学病院 8施設

- ・ 北海道大学
- ・ 東北大学
- ・ 三重大学
- ・ 京都大学
- ・ 京都府立医科大学
- ・ 広島大学
- ・ 九州大学
- ・ 慶應義塾大学

小児専門病院 10施設

- ・ 埼玉県立小児医療センター
- ・ 国立成育医療研究センター
- ・ 東京都立小児総合医療センター
- ・ 神奈川県立こども医療センター
- ・ 静岡県立こども病院
- ・ 宮城県立こども病院
- ・ 茨城県立こども病院
- ・ 千葉県こども病院
- ・ 長野県立こども病院
- ・ 大阪母子医療センター

- ・回診の頻度

週		月	
1回	6施設	2回	2施設
3回	1施設	1回	1施設
5回	5施設	依頼ごとに	2施設
		なし	1施設

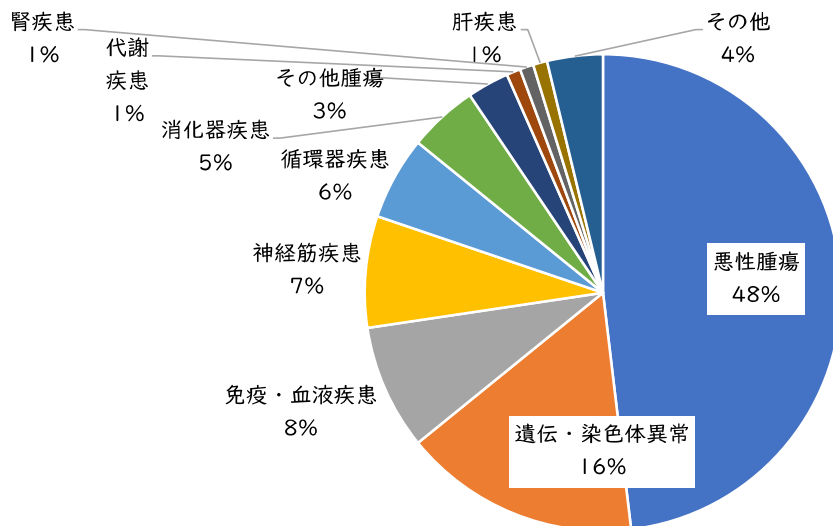
がん以外への疾患の関わり

	N=13	経験あり	1-4	5-9	>10
疾患					
血液がん	12 (92%)	5	4	3	
がん (血液以外)	11 (85%)	5	4	2	
今回18施設中16施設は	2 (15%)	1	0	1	
何らかの形で非がん患者への	2 (15%)	1	0	1	
関わりあり	2 (15%)	1	0	1	
→まだ十分でないとの回答も	2 (15%)	2	0	2	
中学生	11 (92%)	8	0	2	
高校生	12 (92%)	8	1	2	
	9 (69%)	7	1	1	

2015年 小児がん拠点病院調査

Yotani N, et al. J Pain Symptom Manage 2018;56:582-587

成育医療センター緩和ケアチーム介入実態



2020年度
106人

小児特有の状況への加算追加を目指して

- 対象、施設、チームの構成員
 - 小児特有の疾患への対応（非がんへの拡充）
 - 小児専門施設でも算定可能な体制整備
- 各施設の取り組みから小児緩和ケアチームの基準（手引き）の作成

小児患者に対する緩和ケアチームの実態把握

- 現況報告と合わせて検討

チーム構成要員：常勤	活動実態	体制
身体症状医師	カンファレンスの回数	緩和ケア外来
精神症状医師	直接診療する活動を行っている日数	地域連携
看護師	アウトカムの項目	相談窓口の設置
薬剤師	介入患者数	緩和ケア病棟
公認心理師	背景疾患	加算の有無
MSW	介入内容など	
管理栄養士		
リハビリテーション職		

第17回 小児がん拠点病院連絡協議会

事前アンケート結果

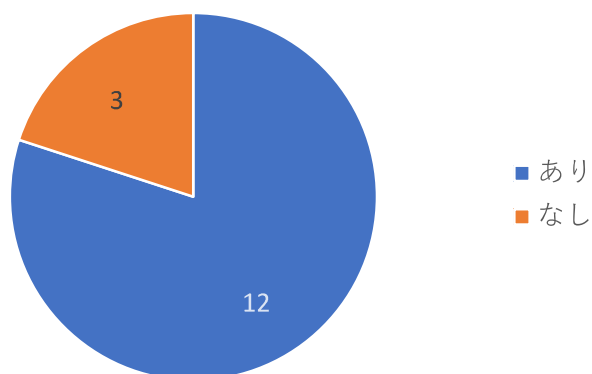
回答数:15施設

1. 緩和ケア部門について

15

1) 外来において専門的な 小児の緩和ケアを提供できる体制について

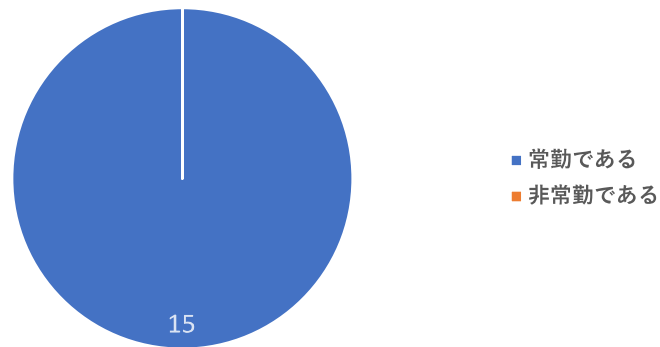
(回答15)



16

2) 緩和ケアチームの身体症状担当医師について

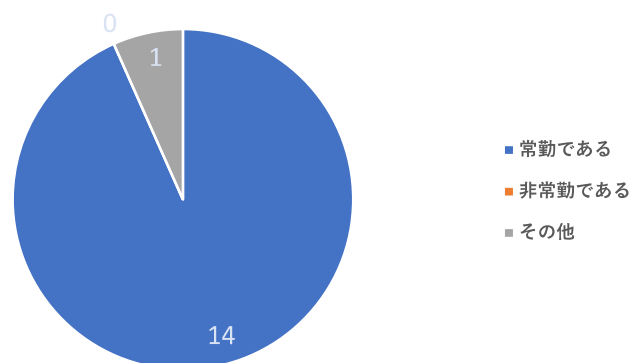
(回答15)



17

3) 緩和ケアチームの精神症状担当医師について

(回答15)



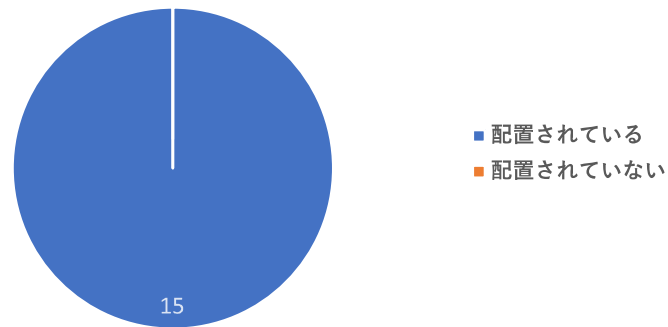
その他

- 精神症状は緩和ケアチームではなく精神科リエゾンと協同する

18

4) 緩和ケアチームに協力する薬剤師が
1人以上配置について

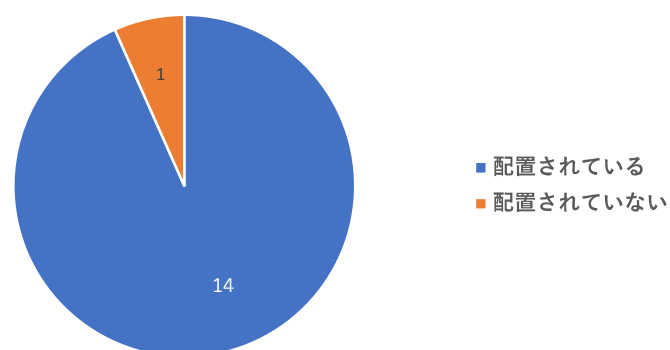
(回答15)



19

5) 緩和ケアチームに協力する公認心理師等の
医療心理に携わる者が1人以上配置について

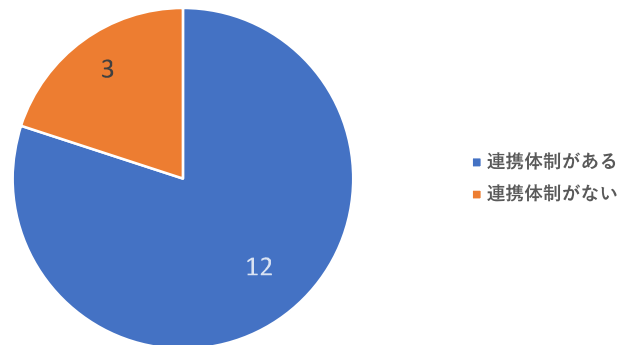
(回答15)



20

6) 地域のがん診療連携拠点病院等の 緩和ケアチームとの連携体制について

(回答15)



21

7) 6)で「ある」と回答された施設 具体的な連絡体制についてご記載ください。

(回答12)

- ・ オンラインで定期的に（2週間に1回）話し合いを行っている
- ・ 院内緩和ケアチームと常に連携がとれている
- ・ 在宅医療機関を中心にネットワークがある
- ・ 三重県がん診療連携協議会の中に県内の連携施設で構成されている緩和ケア部会があり、委員会等を開催して連携を行なっている
- ・ 症例相談
- ・ 成人のがん診療連携拠点病院及び県がん診療連携協議会と連携し、継続的な緩和ケア診療提供体制の質の保証をしている
- ・ 当院が地域のがん診療連携拠点病院である
- ・ 当院は都道府県がん診療連携拠点病院でもあるため、成人の緩和ケアチームが存在しており、小児緩和ケアチームと成人緩和ケアチームで連携を行っている
- ・ 必要な場合には、適宜連絡をとり、連携している
- ・ 隣接する多摩総合医療センター緩和ケア科の医師がカンファレンス等に参加
- ・ 連携するがん診療連携拠点病院の緩和ケア医が当院非常勤医師として、緩和ケアカンファレンスに参加する等チームに参画している

22

8) 6)で「なし」と回答された施設
具体的な連絡体制についてご記載ください。

(回答3)

- ・ 現在、他院の成人緩和ケアチームとの連携を検討中
- ・ 当院はがん診療連携拠点病院であり、当院の症例は院内の緩和ケアセンターと連携して診療をおこなっている。小児がん症例について院外の緩和ケアチームとの連携はない。
(個々の症例について地域の病院や診療所との終末期を中心とした緩和医療の連携は
おこなっている)
- ・ 連携施設ごとに独自で対応が可能なため